６　地域型センターの具体的取組事例

寸劇を用いた認知症カフェの開催
～地域で認知症を考える～

ほっとかん地域包括支援センター

①目指す姿・困っていたこと

高齢者クラブ等への活動等は行っていたが、これから、介護を担う世代等へのアプローチが出来ていなかった。

②取組内容・工夫したこと

自治区の女性会にて、これから、介護を担う世代を対象に「認知症カフェ」を開催させて頂きました。

60代～70代の方の方の参加過半数以上でした

認知症の方への対応に関する寸劇を見て頂き、その後、どのような対応をすればよかったかを一緒に考えて頂きました。

実際に劇へ参加をして頂きました！

③効果（見込み）

介護を担う世代等への認知症の理解の促進する機会とする事が出来た。

・参加者の方からも、「見守りや声掛けが大切である」とご意見を頂きました

認知症に関する支援者の育成

ぬくもりの里包括支援センター

①目指す姿・困っていたこと

【目指す姿】
＊認知症サポーターに活躍の場を提供し、学んだことを地域で役立ててもらう
【困っていたこと】
＊認知症サポーター養成講座で学んだ知識を役立てる場がない

②取組内容・工夫したこと

認知症サポーター養成講座を開催

旭中学校

傾聴ボランティア養成講座

ぬくもり教室

３１名の認知症サポーターが誕生！！

講座修了者をボランティアセンターにつなげボランティア登録してもらう

デイサービスでのボランティア活動や地域での見守り活動等で、学んだ知識を役立ててもらう

③効果（見込み）

＊養成講座受講生にデイサービスでの活躍の場を提供した
＊困っている人を見かけたら声をかけたいなどの意見をいただき地域での見守り体制を強化することができた

民生委員とケアマネジャーの情報交換会 ～コミュニティタイムラインの作成～

社協包括支援センター

①目指す姿・困っていたこと

民生委員とケアマネジャーの関わる機会が少なく、お互いの顔や名前を知らない。

⬇

一堂に会する機会を作り、顔の見える関係を構築し、お互いが活動しやすくなることを目指す。

②取組内容・工夫したこと

民生委員とケアマネジャー、双方に関係のある内容を踏まえてテーマを選定

⬇

R6年4月にBCP策定が義務化される

⬇

市役所防災対策課の出前講座に『マイ・タイムラインを作ろう！』というものがある
➡内容をコミュニティ向けにしていただけないか依頼

テーマ：災害時のコミュニティタイムラインの作成

- 災害時のお互いの役割の明確化
- 防災意識向上

③効果（見込み）

顔の見える関係の構築だけでなく、災害時に自分たちができることや、事前にしておくべきことなど役割の明確化ができた。
また防災意識の向上にも繋がった。

「足助まるっとささえあいの会」を開催

足助地域包括支援センター

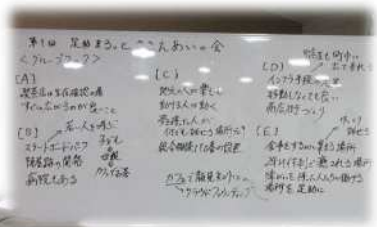
①目指す姿・困っていたこと

【目指す姿】
〇高齢者・子ども・障害者に関する相談窓口の周知
〇どんな困りごとでもワンストップで受けられる体制づくり
〇参加者同士のネットワークの構築
【困っていたこと】
〇どこに相談したらいいかわからないという声が挙がった。
〇ささえあいネットに登録しているものの、登録機関が果たすべき役割が曖昧だった。

②取組内容・工夫したこと

【取り組み内容】
〇ささえあいネットワーク会議「足助まるっとささえあいの会」を社会福祉協議会と共催で今年度３回実施した。
〇足助地区の商店や福祉関係者、民生委員などが参加した。
〇第１回は「夢を語ろう（足助にあるといいもの）」、第２回は「困っている人がいたら、あなたならどうする」、「第３回は「足助の困りごとについてできることを考えよう」をテーマにグループワークを行った。
【工夫した点】
〇住民が主体的に地域課題について検討できるように、グループワークでは、高齢者という視点だけでなく、災害や多世代交流など地域全体に関するテーマについて話し合った。

◂第1回足助まるっとささえあいの会申し込み用紙



◂▸第1回足助まるっとささえあいの会の様子

③効果（見込み）

【効果（見込み）】
〇グループワークを通して、地域に貢献したいと思っている人同士がつながるきっかけになった。
〇地区によって既に実施している取り組みや地域資源などの情報を共有する機会になった。

高齢者が輝ける街へ！！

豊田福寿園地域包括支援センター

①目指す姿・困っていたこと

特技や培ってきた技術経験は残っているのに、活躍できる場所がない…

①認知症への理解を深めてもらう！
②高齢者が輝ける場所を作る！

②取組内容・工夫したこと

ニーズを調査

・個々の相談からニーズを抽出。
・カフェのママ主催のイベントに参加し、地域の声を直接拾い上げた。

資源探し

・ニーズに合わせてマッチングできるよう、協力してくれる地域住民（ヒト）、カフェ（場所・モノ）に声をかけた。

実現にむけて

・地域住民のタンスに眠っていた作品を展示。
・協力店のママさんと認知症カフェの交流会に参加した。
・協力店で認サポを実施するため段取りを行った。

③効果（見込み）

①認知症への理解

・R6.5　協力店で認サポ講座を実施。地域の応援者を増やす。
・認知症予防カフェとなる。
・個と個をつなぎ介護家族会を行う。

②高齢者が輝ける場所

・外出できない高齢者が社会参加でき、生きがいを作る。

民生委員との顔馴染みの関係づくり

石野の里地域包括支援センター

①目指す姿・困っていたこと

目指す姿

民生児童委員の方とともに高齢者の方の困りごとなどの早期発見や見守りを強化して、石野地域の方が安心して生活できる地域を目指す。

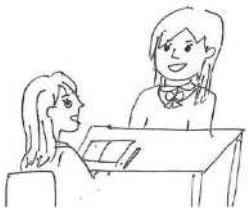
困っていたこと

およそ3年に亘るコロナ禍で、民生児童委員やその他の地域支援者の方との連携が限定的となり、高齢者の方の生活様子や困りごとなどの早期の把握がしづらくなっていた。

②取組内容・工夫したこと

◎ 民生児童委員の方と面談(4月～10月)

石野地区民生児童委員協議会開催の前に毎月２名ずつ各10～15分程度の面談し、お互いの地域で気になる高齢者の方の情報を交換し共有した。



《聴取した主な内容例》
・認知症でよく訪ねてくる方がいる
・ひとり暮らしで生活が心配⇒ひとり暮らし登録は？
・同居する家族のことが心配
・地域の高齢者の把握方法がわからない
・地域の高齢者のサロン参加状況など

◎ 認知症サポーター養成講座の開催

石野地区民生児童委員の方16名を対象に7月12日に地区民児協後に開催。多くの方が「少し理解できた」「理解できた」とご回答いただいた。

《主な感想や意見》
・講座を受けていたら、もう少し認知症の家族への接し方も変わっていたかも
・接する際の心構えについて理解できた
・何かあったら地域包括支援センターに電話します
・民生委員としての関り方は、家族と異なった配慮が必要
・地域包括支援センターが家族の支えとなるので、相談しやすい態勢や民生委員との密な連携が大切である

③効果（見込み）

令和4年12月の改選で民生児童委員の方の多くが交代、コロナ禍での対応は緩和された。
こうした中、包括職員との面談は短時間ですが、お互いを知り、地域の高齢者の困りごとを知る良い機会となりました。今後の事業推進において、民生児童委員の方との連携はとても重要で、その一歩を作ることができた。
また、認知症サポーター養成講座も開催させていただき、認知症への理解を深めることもできた。

なじみの店で認知症カフェ開催

いなぶ包括支援センター

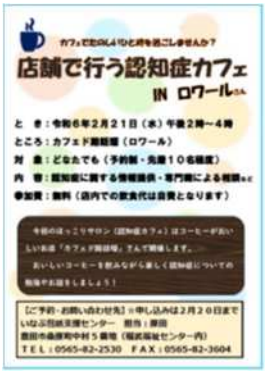
①目指す姿・困っていたこと

【目指す姿】
ご近所のなじみの店で開催することで参加しやすく、開放的な雰囲気で話しやすい誰もが参加したくなる認知症カフェを目指す。
【困っていたこと】
・会場（稲武福祉センター）までの移動手段が少ない。
・特定の人しか参加できず、新規の方が参加しづらい。

②取組内容・工夫したこと

【取組内容】
◎地域の店舗を会場にして認知症カフェを開催。
【工夫したこと】
・店舗に対して、認知症カフェについて説明し、理解・納得していただいたうえで実施した。
・店の人からお客さんや地域の人に、PRしていただいた。
・チラシ、ポスターに開催場所の詳細地図を入れた。
・健康よろず相談を同時開催し、コミュニティドクター・ナースが相談対応、多様な悩み相談に対応できるようにした。
・認知症サポーター、ボランティアに協力を依頼し、多くの住民を巻き込んで実施した。

フリートーク



認知症のミニ講話

ボランティアによる演奏

健康よろず相談

③効果（見込み）

【包括のメリット】
・参加者がリラックスして楽しく認知症について学べる機会となった。
・実際に認知症の当事者にも参加いただいた。
【店舗のメリット】
・認知症の人にやさしいお店としてPRができた。
・気になる高齢者がいたら包括に相談すればいいことがわかった。

医療機関内の包括という特性を生かした地域の連携事業

豊田地域ケア支援センター

①目指す姿・困っていたこと

地域との繋がりを大切にした病院づくりを目指す当院多職種と共に、介護予防講座の開催を通じて高齢者を支える基礎を築く。

②取組内容・工夫したこと

包括が軸となり、自治区と当院の多職種を繋げ、高齢者を支える仕組みづくりを行っている。今年度は、各自治区の老人クラブや敬老会で、介護予防のための健康教室を、豊田地域医療センター診療放射線科の放射線技師兼骨粗鬆症マネージャー（一般社団法人日本骨粗鬆症学会認定資格）と連携して開催した。
多くの方に参加してもらえるようにチラシを作成し、自治区の役員様を通して地域の方に配布していただいたり、区民会館にチラシを置かせていただくなどPRに力を入れた。
当日は骨密度に関することや骨粗しょう症の予防法などのお話をしていただき、併せて豊田地域ケア支援センターの職員より包括のPRも行った。
５つの会場で開催し、老人クラブの関係者やその他地域の方も含めて述べ220名程に参加していただくことができた。
参加者の中には骨粗しょう症の方も何名かおり、質疑応答の際に具体的な改善方法や悪化防止のために日頃から意識するべきことなど積極的に質問をされていた。

③効果（見込み）

自治区との交流を頻繁に持つことで、これまで関わりがなかった方々とも縁ができ、包括のことを知っていただくことができた。また、地域の高齢者と当院多職種が健康に関するテーマをもとに交流することで信頼関係の構築につながった。

防災とケアプラン～自助力の向上・地域との連携～

ふじのさと包括支援センター
ふくしの里包括支援センター

①目指す姿・困っていたこと

R6年度
BCP義務化
どう取組む？

昭和47年7月
の豪雨災害で死
者多数の歴史…

いざというとき、どう動く？
包括は？ケアマネは？
何より避難行動要支援者は？
安否確認の優先順位は？

②取組内容・工夫したこと

防災士の資格を持つケアマネに話を聞こう！

藤岡・小原地区の居宅介護支援事業所は小規模精鋭
発災時に連携して動けるように、2014年から続く
ノースケアマネット(藤岡小原ケアマネ交流会)で開催

第一部　防災士兼主任ケアマネを講師に講演会
【防災とケアプラン～自助力の向上・地域との連携】
東日本大震災の被災ケアマネの声
静岡県介護支援専門員協会の災害時台帳
安否確認優先順位等の活用
第二部 グループワークで課題を共有、日頃から連携を密にして、普段力を上げることが大切と確認

③効果（見込み）

【参加者の感想】
・BCPに取り組む気力が出てきた
・やるべきことが具体的になった
・日頃からするべき利用者への声かけ、勉強になった
【民生委員との連携の場創成へ】
・ケアマネ側から民生委員と連携を取る場が必要との声が上がり、R6年度計画予定

認知症の方を見守れる地域作り

地域包括支援センターかずえの郷

①目指す姿・困っていたこと

認知症相談窓口での相談が年々増加。
徘徊高齢者等捜索模擬訓練、ささえあいネットワーク会議、区長・民生委員・高連との地域ケア会議を毎年開催し情報共有。

虐待に繋がりそうな相談や急を要する相談が増加傾向。
コロナ禍以降、家庭や地域の環境の変化の影響も考えられる。
周りが変化に早期に気付けることで認知症の方・家族が安心して生活できる地域作りが出来ないかと考えた。

②取組内容・工夫したこと

令和６年度　認知症相談窓口での相談内容の振り返り

・元々家族関係がよくなく、認知症発症でさらに悪化。
・子世代に障害があり、就労ができず経済的に介護保険サービス利用が難航。
・認知症の診断を受けたが、家族（特に配偶者）が受け入れできずイライラしてしまうケース　など

民生委員・ささえあいネットワーク登録機関から連絡が入るケースもあり、緊急ショートステイを依頼するケースも数件あった。

＊迅速かつ適切な対応を行うことで、対応の悪化・長期化、再発防止・未然予防策に繋げていく。
＊地域で重要な課題に対処するための知識・共有ができる機会を設ける。

法人で高齢者虐待・身体拘束防止について外部講師を招き勉強会を計画

研修開催日：令和６年３月２１日（木）
講師：塚本鋭裕　先生
～対象・案内方法～
・上郷地区民生委員へ地区協議会時に案内
・ささえあいネットワーク登録機関：往復はがき
・上郷地区居宅介護支援事業所：電話・文書

③効果（見込み）

＜３月２１日開催の研修参加予定＞
・民生委員：２０名
・ささえあいネットワーク登録機関：９機関
（信用金庫、お寺、スポーツクラブ、印刷店、造園業者、包装店、交流館、自動車工場関連　など）
・上郷地区居宅介護支援事業所
ささえあいネットワーク会議にこれまで出席のなかった登録機関から『高齢者との関りを知りたい』と出席の返答あり。
参加者が顔を合わせる機会となりこれまで以上に見守れ安心して暮らせる地域作りを目指していきたい。

多世代交流事業「みんジャラ」

地域包括支援センター猿投の楽園

①目指す姿・困っていたこと

◆ 交流の場、特に世代を問わずに交流できる場が少ない。
◆ 介護予防教室で使用していた麻雀台、麻雀牌を活用したい。

②取組内容・工夫したこと

◆ 地域包括支援センター藤岡の楽園との共催とすることで、より広い地域の方との交流を図れるようにした。
◆ 開催場所は、どちらの地域の方も参加しやすいよう、棒の手会館とした。今年度で2年目となる。毎月第3土曜日に開催している。
◆ 感染予防対策もしっかり行い、初心者のみのグループを作ったり、包括職員がーから説明を行うことで、初心者の方でも気軽に参加できるようにしている。
◆ 介護等に関する相談もできるよう相談スペースを設置。各包括のイベントのチラシも置きPR。

③効果（見込み）

◆ 徐々に参加人数が増え、何度か参加することで顔見知りになり、交流しながら麻雀を楽しめる場となっている。
◆ 認知症予防を目的として参加される方もいる。

警察官による特殊詐欺注意喚起

ささの里地域包括支援センター

①目指す姿・困っていたこと

「還付金詐欺」や「架空料金請求詐欺」といった特殊詐欺の被害が増えているが、「テレビの中のこと」「遠い所のこと」「用心深い私は絶対騙されない」と思って危機感が低い、自身の近くまで被害が及んでいる事を自覚してもらい、ひとりひとりに危機感を持ってもらい被害防止を図る

②取組内容・工夫したこと

・豊田警察署生活安全課に依頼し地域の高齢者クラブに警察官に来てもらい、豊田警察署が実際に関わった事例を『**警察官の生の声**』で伝えてもらった
・沢山の方に参加してもらえるように事前に高齢者クラブ会長と打ち合わせをした
・豊田警察署生活安全課に**特殊詐欺被害等防止機器のデモ機**を持参していただき、実際に試してもらい、豊田市の**特殊詐欺被害等防止機器購入費助成金**の紹介をした
・参加者から警察官に質問してもらい、より具体的な対策案を教えてもらえた
・ささの里包括で注意喚起のチラシを作成して配布した

（当日の様子と配布チラシ）

③効果（見込み）

・自分にも起こり得ること、被害は身近なことと理解してもらい危機感を持ってもらえた
・警察官から被害のあった実際の手口を紹介してもらい臨場感を持ってもらえた
・特殊詐欺被害防止等機器を体験してもらい、助成金の紹介をして導入するきっかけ作りができた

足助消防署下山出張所との情報交換会

まどいの丘包括支援センター

①目指す姿・困っていたこと

下山地区の高齢者や障がい者の方を支援する上で、顔の見える関係をつくり、緊急時連携できるようにしたい！！

②取組内容・工夫したこと

取組内容

下山地区の心配な一人暮らし高齢者等の情報共有

※一人暮らし高齢者等：高齢者世帯、高齢者と障がい者の世帯

参加者

- 足助消防署下山出張所
- 包括
- 居宅
- 障がい相談支援事業所
- CSW(社協)

内容

- ●各担当より心配な一人暮らし高齢者等の情報提供
- ●日々の活動で気になる一人暮らし高齢者等の情報共有
- ●消防署より目印がない場所での119番通報の話

支援者が変わっても連携していけるように年１回開催

今後活かせる情報も！

- 利用者宅から救急要請する際は携帯ではなく固定電話から通報すると住所が早く特定でき出動が早くなる！！
- 周りに何もない場所、目印がない場所で緊急事態が生じたら「中部電力の電柱」にある番号を伝える。
- 応急手当に困ったら「動画119」を活用

消防署：在宅酸素の方を搬送する時、最大流量がわからないことがある。見える化してあると助かる。

会でのひとコマ

ケアマネ・包括：把握している方については本人・家族と確認して見えるよう工夫します。

工夫したこと

- ✿ 事前に消防署担当者と内容を検討し必要な情報提供ができるようにした。
- ✿ 障がい相談事業所やCSWの参加により地域全体で一人暮らし高齢者等の生活状況等を把握し円滑な連携につなげることができるようにした。

③効果（見込み）

- 認知症の有無や日ごろの生活状況等を把握することで緊急時の対応に役立てる。
- 様々な担当が一同に会すことで複合課題を抱える世帯を把握することができる。
- 包括が未把握で消防が把握している心配な高齢者の実態把握につなげることができる。

地域包括支援センターPR活動

豊田厚生地域包括支援センター

①目指す姿・困っていたこと

家族の呼び寄せで浄水地区に住まいを移す高齢者が多い。地域との繋がりを築くことが難しいこともあり、必要な支援を受けられない。地域包括支援センターの存在を知ることで、必要な支援につながるようにしたい。

②取組内容・工夫したこと

浄水駅前マルシェ

高齢者の生活や介護サービスなどの相談対応や認知症啓発のための窓口を設置。
子どもたちやその親世代にも認知症について知ってもらうためにロバ隊長のぬり絵を用意した。

包括支援センターPRポスターの掲示

地域との関係が築きにくく閉じこもりがちになってしまうマンションへ住む高齢者へ地域包括支援センターの存在を知ってもらうためにポスター掲示ができるよう活動をした。ポスターの内容は具体的な困りごとの例を記載し、相談先がどこか一目で分かるように工夫をした。

③効果（見込み）

マルシェでは「今後のために施設のことを知りたい」「認定がないとデイサービスに行けないのか」などの相談があり、対応することができた。また、ロバ隊長のぬり絵をしてもらいながらロバ隊長が認知症啓発と繋がりがあることを子どもや親に知ってもらい、認知症啓発に繋げた。
相談をしていたマンションの管理会社から掲示の許可があった。ポスターを見て相談に繋がることを期待。今後も随時、対象の事業所等に声かけしＰＲ活動を続けていく。

ささえあいネットの集い（防災の心得について）

みなみ福寿園地域包括支援センター

①目指す姿・困っていたこと

①平常時から地域事業所の多職種連携や住民の助け合いの強化を目指す。
②平常時から災害時の課題の対策方法を共有しネットワーク体制作りを目指す。

②取組内容・工夫したこと

ささえあいネットの集いを開催

ささえあいネット同意店、高齢者クラブを対象に「防災の心得」について防災対策課の方に講話頂きました。

災害の体験や地域の危険箇所、避難指示や自助、共助、日ごろからの近所付き合いの大切さについて学ぶことができました。

座談会では、参加者の災害の備えや地域の見守りについて聞くことができました。

③効果（見込み）

アンケートにて
・近所の方と防災について話をしたいと思いました。
・一人暮らし高齢者の方等の避難の際の助け合いの仕組みについて知りたい。
・防災を考えることが何か生きる楽しみにつながるといいなど意見を頂くことができました。

平常時の地域でのささえあいが防災に繋がるという意識が高まりました。

介護保険以外のサービスを活用しよう！

ひまわり邸地域包括支援センター

①目指す姿・困っていたこと

高齢者・若年性認知症のかたが、障がいサービス事業所やずっと元気プロジェクト参加事業所、地区の集いの場等、介護保険以外のサービスを活用できるようになる

②取組内容・工夫したこと

見学・体験

障がいサービス事業所
ずっと元気プロジェクト参加事業所
シルバー人材センター
地区の集いの場

年4回発行の『季刊紙』にお役立ち情報として社会資源を掲載

紹介

ひとり暮らし高齢者実態把握訪問時等に季刊紙の内容を口頭で説明
出前講座・介護予防教室で紹介

③効果（見込み）

- 包括職員が介護保険以外の社会参加の場所を紹介しやすくなった
- 元気な高齢者の社会参加の選択肢が増えた

自治区・民生委員との情報交換会

わかばやし園地域包括支援センター

①目指す姿・困っていたこと

1964年頃にできた住宅地

2024年 ⇩ ６０年間

高齢者世帯・ひとり暮らし
親族遠方・空き家・認知症

- 心配だと思う高齢者が増えてきた。
- 訪問しても困っていることを聞きだせない。
- 包括と自治区の連携を強化したい。
- 介護保険や社会資源のことを知ってもらいたい。

②取組内容・工夫したこと

民生委員
自治区

- 地域の困りごと
- 民生委員の活動
- 自治区の活動

⇔

包括支援センター

- 地域の実態把握
- 包括の活動

買い物に行けない高齢者が増えた

多世代に介護を知ってもらいたい

ひとり暮らしみたいだけど・・・

虹和会　結成
（区長・民生委員・地域包括支援センター）

定例会（月1回）に参加

移動販売車の紹介

福祉用具体験会
健康測定会共催

同行訪問

移動販売車の駐車場の確保
地域住民へ周知

開催場所の提供
地域住民へ周知

③効果（見込み）

自治区・民生委員との連携強化

相談しやすい関係性を作ることができた。
地域の高齢者や社会資源の実態把握ができた。

包括支援センターを周知

民生委員や自治区が講座参加の声掛けをしてくれることで必要としている方に情報が届くようになった。

個別支援の強化

お互いの強みをいかし高齢者の実態把握や支援の介入がしやすくなった。

岩滝町上地区高齢者の新たな居場所作り

地域包括支援センターくらがいけ

①目指す姿・困っていたこと

岩滝町上地区の高齢者で引きこもりがちの人が心配。認知症が心配な人もいる。外に出てきてもらうきっかけが欲しい！

⚠ 問題点

- 従来の岩滝町上地区の集いの場は男性のみのメンバー、また固定メンバーで新しい人が入りにくい
- 地区の高齢者クラブの会場は遠いため参加しにくい

②取組内容・工夫したこと

R4年秋より岩滝町の高齢者クラブ会長より居場所作りの相談を受け、数回話し合いの場を持つ。
話し合いの中で認知症の人への理解が大事だと感じる。
☆R4年10月自治区定例会でアルツハイマーデーに市が作成した当事者、家族の声を紹介。
☆R4年11月ステップアップ講座を開催。
参加を促すきっかけに包括支援センターの出張相談窓口も併設することとなる。
☆R5年5月岩滝町集いの場プラス出張所開設
⇒認知症の人が不定期だが参加するようになり『チームオレンジ岩滝』として始動。
何か名前があるとより結束感が強まり、集いの場に愛着を持てるのでは？
と地区の人と名前を考えることに。
☆R5年12月「わはは岩滝」と名前が決まる
出張相談を前面に出すと、相談のない人が参加しにくいのでは？
と考える。
☆R6年1月内容から出張相談の名目を除外する

③効果（見込み）

新たな集いの場ができた。
認サポを受けた人が積極的に参加し、チームオレンジ岩滝として支え合えるようになった。
何度も話し合い、検討し、地区にあった居場所作りを模索してきた。
今の形がゴールではなく、今後も柔軟に進化していけるように地区の人と考え、取り組みいずれ包括の支援を終了する。

ロバ隊長を活用した 多世代への啓発活動

地域包括支援センター藤岡の楽園

①目指す姿・困っていたこと

地域包括支援センターの認知度
46.7%（2019年度）
第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画より抜粋

- **若い世代の包括認知度アップ**
- **幅広い世代へ、認知症の啓発**

認知症サポーターキャラバンマスコット『ロバ隊長』を活用して、幅広い世代に周知啓発活動!!

②取組内容・工夫したこと

【ふれあいフェスティバル：徘徊高齢者捜索模擬訓練】

・イベント会場全体を使用した捜索模擬訓練を実施
・情報カードを配布し、徘徊高齢者（包括職員）を捜索
・発見後に地域住民に作っていただいた「ありがとう」しおりを配布

【交流館イベント：認知症紙芝居の読み聞かせ】

・ロバ隊長マスコット作成ボランティアを地域住民に依頼
・ロバ隊長の紙芝居を作成。イベント時に読み聞かせを実施
・鑑賞した子供たちに、ロバ隊長のマスコットを配布

③効果（見込み）

徘徊高齢者捜索模擬訓練では、老若男女 80名の方が参加され、50名から発見いただく。

認知症紙芝居を20組の親子が鑑賞その後地域で声をかけていただく。

マスコット作成ボランティアへ、配布活動の様子を報告。参加者が知人にも勧め、継続的な協力関係を構築。

豊南交流館・商業施設にて包括PR

トヨタ地域包括支援センター

①目指す姿・困っていたこと

目指す姿
・多世代へ包括を周知し、身近に感じてもらう

困っていたこと
・多世代との交流機会が少なく効率よく周知活動が出来ない

②取組内容・工夫したこと

【地域包括支援センターとは？をテーマに展示】

様々な年代が集まる場所を選定。

①豊南交流館(5月)

子ども達にも興味を持ってもらえるように参加型ブースを設けた。閲覧者の年齢層把握のため鯉のぼりの色を世代別にした。(176名)

②商業施設(7月)

買い物帰りに必ず通る場所で展示。
展示期間中には、介護相談会も開催。

③効果（見込み）

豊南交流館では、来館者への周知となるがその世代層は広いことが分かり、これからの活動に生かしていきたい。
商業施設では、介護保険ガイドブックやこれってもの忘れ？など各資料の無くなるスピードが速く、今すぐ包括へ相談ではないが、気になっている方々へも周知出来たと思われる。

外国人を含む高齢者への情報発信

地域包括支援センター保見の里

①目指す姿・困っていたこと

・保見ケ丘、特に県営住宅には外国人高齢者も多く住んでいる。
・言葉の違いが原因で、外国人高齢者に高齢者福祉の情報が充分届いていないのではないか？

②取組内容・工夫したこと

・自治区、言語や高齢者支援に係る活動をしているNPO法人と連携して、外国人を含む高齢者向けの介護保険制度・高齢者支援説明会を企画、実施。

・母国語が日本語/外国語に関わらず同じ空間で実施（多文化交流を目指す地域の意向）。
・通訳を手配。説明の一段落ごとに日本語⇒通訳と行うことで、全体のペースがゆったりとなり説明がよく伝わった。
・全体説明の後各テーブルごと職員を置いて質疑応答に対応。多くの方に発言いただけた。

③効果（見込み）

・日本語以外を母国語にする方々への情報発信の第一歩を踏み出せた。

・通訳を介する際のノウハウを得ることができた。

交流時間がたっぷりの家族介護交流会

つつみ園地域包括支援センター

①目指す姿・困っていたこと

家族介護交流会で、介護する人の悩みや体験談を聞いて何かを得たり気晴らしができ、少しでも前向きな気持ちで過ごせるようになってもらいたい。

②取組内容・工夫したこと

5月実施1回目「体調が悪くなった時の不安」
訪問看護師さんに協力いただき、救急車を呼ぶタイミングについて講演をしていただいた。

講座内容は好評だったけど・・・

→看護師さんに聞きたいことが多すぎて介護者同士の交流が十分できなかった。

10月実施2回目「介護サービスの紹介」
名前は知っているけどどんなサービスかわからない、知らないサービスの勉強を簡単にして、残りは介護サービス事業者と介護者同士の交流の時間をたっぷりとった。

③効果（見込み）

介護者同士の交流と複数の専門家との交流で

！！満足！！

介護予防教室「どこから始める？家のお片付け」

地域包括支援センター益富の楽園

①目指す姿・困っていたこと

地域の高齢者の方より、
・物を減らしたい
・子どもたちには迷惑をかけたくない
・いつかはやらなきゃと思っているが、思い出の品の片付けや大きなものの処分がなかなか進まないといったお困りごとが多く聞かれた。

②取組内容・工夫したこと

・充実したシニアライフを始めるための提案として、専門アドバイザーに講師を依頼し、お片付けの手順やコツを紹介した。自宅の片付けをすることにより、これからのシニアライフを考えていただけるきっかけになった。
・専門アドバイザーの方と何度も打ち合わせを行い、地域性を知っていただき講座の内容に反映した。
・講座タイトルがきっかけで興味を持っていただく方が多く、包括支援センターの周知にもつながった。
・世間一般では「断捨離」という言葉がよく用いられるが、あえて断捨離をさけて「お片付け講座」とした。

③効果（見込み）

・40名以上の方に参加いただいた。
・アンケート結果より、半数以上の方が回覧板を見て申し込みされたということがわかった。
・家電製品等の捨て方の話を聞き、買う時に捨てる時のことも考えて購入しようという意見もあった。
・終活のひとつとして身の回りの片付けに興味のある方が多い地域特性がわかった。

民生委員との連携強化

笑いの家地域包括支援センター

①目指す姿・困っていたこと

✔ R4.12月の民生委員任期交代により新任の民生委員が増えた。

✔ 包括職員と顔の見える関係づくりを行うとともに、連携を強化し地域の高齢者の困りごとを早期にキャッチできる体制づくりをする必要がある。

②取組内容・工夫したこと

民生委員に向けて、**『地域包括支援センターとの連携』**をテーマに勉強会を開催した。内容として、包括の役割や業務内容の他に、これまでの通報事例をいくつか取り上げてスライドにまとめた。

また、民生委員が一人暮らし訪問などの際に持ち運べるように、A4用紙裏表1枚に**連携のポイント**をまとめて配布した。

工夫点

訪問時に想定される高齢者からの相談内容や困りごとに対して、包括がどのような対応をするか一例として載せ、具体的に連携の場面が想像できるように作成した。

そのほかに、認サポ・ステップアップ講座開催の際、積極的に民生委員に声をかけて出席していただいた。

③効果（見込み）

✔ 民生委員からの相談や情報提供が増え、実際に包括と連携して動くケースも増えてきた。

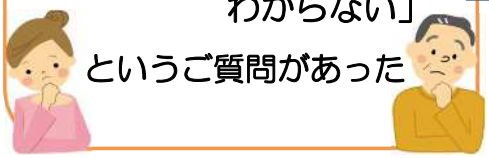
✔ 「困ったことがあれば包括へ相談する」という流れができ、抱え込まず気軽に連絡を取り合うことのできる関係づくりにつながった。

ささえあい協力機関との連携、包括フライヤー作成

地域包括支援センターとよた苑

①目指す姿・困っていたこと

ささえあい協力機関の方から
地域のお客様より、
「どこに相談すればいいのか
わからない」
というご質問があった



②取組内容・工夫したこと

包括支援センターのフライヤーを作成

ご意見の中に「住んでいる地区の担当包括がわからない」といった声もあり、町名入りのA5判、持ち運びしやすい名刺サイズの2種類を作成した
ささえあい協力機関でご協力いただける場所に、設置をお願いした

ささえあい協力機関専用に
季刊誌「SASAEAIみさと」を発行

自治区に向けて発行している季刊誌を、ポスターとして貼ってくださる機関があるため、ささえあい協力機関専用の季刊誌「SASAEAIみさと」を発行。そこにフライヤー配布を宣伝した

③効果（見込み）

- 地域住民や関係機関が相談しやすくなった。
- 関係機関との連携が強化できた。

いつまでもお出かけしよう！（企業コラボイベント）

ひまわりの街地域包括支援センター

①目指す姿・困っていたこと

・気づきや新たな情報提供の機会を持つことで、安全に車の運転ができる期間を延伸する。

・運転ができなくなっても自由に外出し、社会参加が継続できる手段を紹介し、安全かつ自立を支援できる地域を作りたい。

②取組内容・工夫したこと

見て、聞いて、体験してもらい自分ごととして意識が高まった。

自治区へ臨時駐車場の開設依頼、敬老会等参加を通して、個別でのイベント周知が実施できた。

高齢者が客観的に自分のドライビングについて考えるチャンスを企画できた。

③効果（見込み）

・ドライビングシュミレーターや脳トレ等でご自身の運転への評価を多角的に行い安全な運転、返納の時期を考える機会になる。

・地区内の企業で開催。
顔の見える関係づくりが深まった。

・参加者より電動カートの利用希望があり、安全に移動できる生活につながった。

多世代に向けた認知症啓発活動　～認知症謎解き～

みのり園地域包括支援センター

①目指す姿・困っていたこと

【目指す姿】
気がかりな高齢者や介護者が**孤立しない**ように**見守り、支援できる地域**を作りたい。

特に

多世代の方に**認知症**について理解を深めてもらい、**地域の協力者**を少しでも増やしたい！！

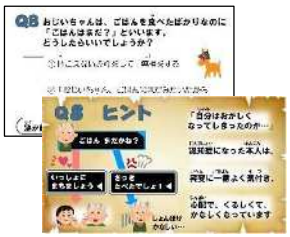
②取組内容・工夫したこと

流行りの謎解きゲームを応用！

認知症謎解き

at 若園ふれあいまつり

【やり方】
①参加者に問題を渡す。
②交流館内に掲示したヒントを探して問題を解いてもらう。
③解けたらブースで職員と答え合わせをする。



【工夫したこと】
①「謎解き」にすることで**多世代の興味を引けるように**した。
②交流館内にヒントを散りばめて掲示することで、**子どもが楽しめるように**した。
③ブース前でも解けるように、ヒントをまとめた**大人向け**ポスターを掲示した。
④答え合わせをその場で行い、**正しい知識**を持って帰ってもらえるようにした。
⑤簡単な参加賞と包括支援センターのマグネットを配布し、**包括のPR**も行った。

③効果（見込み）

子どもからお年寄りまで多くの方にご参加いただき、認知症について知っていただくことができた。

なかなか難しいな

知っておかないと

認知症を学ぶきっかけを作ることができた。

今後

地域の**協力者が増える**